



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 24 R7. 03. 15

【最終回】 文責 校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

抽象化へのいざない ―抽象化が苦しみを救う―

高校時代、私は数学が苦手でした。小学校、中学校ではむしろ得意な方でしたが、高校に入った途端、何のことやらさっぱりわからなくなってしまいました。

そんな私は大学入試にむけ、どうすればいいのか悩んで数学の先生に相談しました。先生曰く「お前が数学ができないのはよく分かっている。だから教科書の例題だけでいいからそれを“徹底的に”やれ」。



“徹底的”。初めは例題を覚えることに懸命でしたが、次第になぜそれが例題なのかを考えるようになりました。つまりそれをもとに応用を考えるようになったのです。

学年が上がるにつれ、学習内容は身の回りの分かりやすい具体的なものから次第に（あるいは急激に）抽象度が増すテーマに変わります。特に抽象概念を学ぶ数学では例題を踏まえて演習問題を大量に解かされる場合がありますが、自分が解けそうもない問題だとそれこそ苦痛になります。

覚えるだけで演習問題が解けるようになればラクなのですが、考えるとなると時間がかかり面倒に感じます。こうしたことを繰り返し経験していくと、覚えること自体が学ぶことになってしまいがちです。

そこで抽象化することが必要になってくるわけです。抽象化とは大事なところ、ポイントを押さえるということです。抽象化する力や抽象を理解する力があると、他の複雑な問題や新しい問題にも応用することができるのです。

コンビニバイトにおける抽象化とは

コンビニでバイトしたとします。店長から「おにぎりの消費期限を見ておいてね」と言われ、「見た (Look)」だけだとどうでしょう。また「おにぎり」だけ見ればいいことなのでしょう。



つまり店長の言う「消費期限を見る」とは「期限が過ぎたものは廃棄し、棚の陳列を整え直すこと」と受け止め、「おにぎりのみならず、サンドイッチやその他の商品についても心がける」という意味に広げて解釈できるわけです。具体の世界に留まる人は悲しい哉、視野が狭い…。

概念（抽象）を把握すれば具体的な事象を考えやすくなります。抽象に慣れることが大人の思考です。先の数学の演習問題も“解き方”に終始して肝心の考え方（概念）を学ばなかったら苦痛になるわけです。その意味で高校時代私にアドバイスしていただいた数学の先生は例題という基本でありもっとも抽象化された事象を“徹底して学ぶ”ことの重要さを私に教えてくれたのだと感謝しています。

分かりやすさだけを求めては成長できません。「アカイ、アカイ、アサヒハアカイ」と言

われてそれが理解できない小学生はおそらくいません。しかし『進歩』は『退廃』である」と言われた高校生は、はたと考え込んでしまう。その意味をかみ砕こうとするわけです。「え？ それってどういうこと？」と。

そこで提案。日常会話で「つまり」や「それって」という言い換えやまとめの言葉を意識して使ってみてはいかがでしょう。あるいは新聞のコラムを単に読んだり、視写したりするのではなく、20字以内でタイトルをつけてみる、なんていうことも抽象化を鍛える大事な思考レッスンです。効果がありますからぜひお試しあれ。

勉強にも「稽古」的な色彩を 一学びの神さまとつながる？

「稽古」と「練習」とはどう違うのでしょうか。「稽古」の漢字の意味から考えてみます。

まずは「古」。白川静氏の『常用字解』には「“古”は十と口を組み合わせた形」とあります。「十」は「干(盾)」の意。「口」は神への祈りである祝詞を入れる器のこと。つまり器の上に聖器としての干(盾)をおいて器を守り、祈りの効果を長い間保たせることが「古」の意味だそうです。「古」に「口(かこい)」を加えると「固」。祈りの効果を守りかためるのが「固い」。長い間保たせる、つまり不変であることが「古」の意味の中心にあるわけです。



一方「稽」はどうでしょうか。大修館の漢和辞典には動詞の意味として①「考証する。問う」、②「頭を地につけそのままの姿勢で礼をする」とあります。

とすると「稽古」とは「長い間保たせるべきものに対して問いかけ、地に頭をつけるほどに拝礼する」ことを意味していることになります。

稽古の場合では先達者(師匠、先生)に対して頭を下げますが、それは先達者に対してというよりも、先達者が背負っている不変的な真理に対して敬意を示しているわけです。

中国古代学者の加藤常賢氏は「“稽古”の出典である尚書では“稽古とは神霊と接続する行為”と示されている」と指摘しています。とすると、不変の奥底にある神霊的なものとつながることこそが稽古の醍醐味であり、役に立つとかコスパがいいとか、そういう尺度で見がちな“練習”や“レッスン”とは考え方が根本的に異なると言えそうです。

稽古では、もちろんうまくなることも追求するのですが、もしかするとそのことはそれほど重要なことではないのかもしれないかもしれません。ひたすら稽古することこそが大切であり、その意味で稽古は“上達”よりも“熟達”を志向しているのでしょうか。

「勉強」も探究するという点において“稽古”的な色彩があっているのかもしれない。探究の姿勢を持ち続けることで学びの神さまとつながることができるのかも！奥が深い…。

(閑人閑話)東京マラソンを走った。6年ぶり2度目。4時間6分。最後まで歩かなかった自分に拍手！フルマラソンを走る校長はたぶん佐賀県にはいない。えっへん▼3万8千人の参加者。スタートラインを通過するまでになんと20分を要した▼誰も知らない人ばかり。しかも当たり前だけどもみんな顔が違う。その圧倒的な数に改めて驚いた▼人はそれぞれの人生を生きている。それぞれが主人公として▼東京勤務時代の知己が沿道から声援を送ってくれた。しかし残念ながら、もの凄いの数でお互いに目視不能。でも紐帯というのか、心の結びつきをイメージすると勇気がわいた。互いに讃嘆しながら人と人のつながりを大切にしたい▼さてさて、2年間この通信を読んでいただき、ありがとうございました。感謝！▼特にこの半年はデジタルで送信してききましたが、記念に2年分を一冊に製本してみました。もし「欲しい」という人がいれば連絡ください。差し上げます。ただ数に限りがあるのでご了承ください。承る▼では皆さんお元気で。またいつかどこかで。それまで丈夫で元気です！(弓口)

【当面の主な予定(3月後半)】

14日(金)進路講演会(1年)
18日(火)進路講演会(2年)
24日(月)修了式・退任式
※4月7日(月)令和7年度始業式

2年間ありがとうございました！

